

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2370401230		
法人名	株式会社マザーズ		
事業所名	グループホーム円頓寺東館		
所在地	愛知県名古屋市西区那古野1-20-30		
自己評価作成日	令和5年11月20日	評価結果市町村受理日	令和5年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2370401230-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2370401230-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和5年12月4日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

企業理念である「人生楽しく自分らしく」をもとに住人様1人1人の想いに寄り添い住人様とご家族様の想いを尊重した支援を心がけ、その人らしい・自分らしい暮らし方を医療と連携しながら支援していきます。

今年度は技能実習生さん2名受け入れを行い、人材確保に向けた取り組みを積極的に行いました。その中で伝える大切さを再認識し、昨年入社した職員へも伝える側を体験する機会を設けるなどし、東館の支援とは、考えるきっかけとなったように感じます、離職率も低く、働きやすい環境づくりを心がけています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

「人生楽しく自分らしく」との法人理念に沿い、利用者の意向を反映させた介護計画を作成し、夢の実現を支援している。ある男性利用者は、長年の夢であった「兄との再会」を果たし、次なる夢「ナゴヤドームで巨人戦を観戦する」に向かってリハビリに励んでいる。

生活保護の利用者は、趣味の編み物をするための糸が不足する。それをカバーするため、月に1度のサタデーマーケットで自らの作品を販売している。特注品のオーダーがあり、作製して数ヶ月後に顧客に手渡した。「作品展を見て、あなたのファンになった」との励ましの言葉も届いている。

管理者が地域の消防団の女性団員として活動している。主務は広報担当であるが、実際の火災現場に赴き、残火処理にあたることもある。それらの経験を、ホーム運営等にも活かしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出かけたい時間帯や要望を聴きながらお参りや散歩、買い物、地域バザー出店など自然な形で地域に出かけられる機会を支援しています。	法人理念である「人生楽しく自分らしく」の実践として、利用者の思いや意向を実現につなげる支援に力を入れている。長年の夢であった兄との再会を果たすなど、実現させた事例が幾多ある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアさんと曜日を調整しながら日課や地域との繋がりが継続できるように支援しています。	ホームの立地する商店街の「ごえん市」が、「サタデーマーケット」と名を変えて復活した。これまで通り、みたらし団子を売ったり利用者の小作品を販売したりと、利用者と地域との関係が継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施錠しない支援を継続しています 外出される住人様とのいろいろな関わりを見ていただくことが住人様や職員を覚えていただくきっかけになっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議では身体的拘束や感染症など研修の取り組み、ご家族様アンケート結果の報告・会議の目的を行いました(状況報告・情報収集・評価)	過去1年間、運営推進会議はすべて対面で開催された。地域からの参加者が多いことが特徴で、町内会長をはじめ民生会長や民生委員、薬局、街づくり委員、認知症予防リーダー等々が参加している。	運営推進会議の目的の一つである「目標達成計画の進捗評価」を、会議の議題として取り上げることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	東館では生活保護受給者の方が多いので保護課の方との関係性が築けていると感じます、今回担当の方が変わった際にも困りごと引き継いでいただけていた。	利用者の半数の9名が生活保護受給者であることから、介護保険担当の高齢福祉係とともに、保護係の担当者とも密接な関わりを持っている。生活保護に関する困難な事例にも、適切な助言をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2カ月に1度の身体拘束委員会への参加ユニットごとに毎月の会議で身体拘束について話し合い、取り組み目標を決めています。	3ヶ月に1度、法人主導の「虐待防止・身体拘束適正化委員会」が開催され、管理者が出席している。委員会で話し合われた内容は、ホームのユニット会議で職員周知が図られ、身体拘束をしない支援を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	eラーニングの受講では虐待について必須項目とし全職員対象に行い虐待防止の徹底に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用されている住人様へ支援員の方が来設された際にはご様子をお伝えしたり、面会の依頼、ご本人からの要望・意向のの確認を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	現状は会社の契約担当者が行っている利用者・ご家族様を交えて説明しご理解いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は家族会の開催しました住人様との面会時などにご家族様と直接お話しする機会を設け、家族アンケートを実施、改善点は会議で話し合っています。	コロナ期間中も家族面会を継続して認めており、5類への移行後は家族会も復活した。管理者や計画作成担当者が家族の意見を丁寧に拾っており、家族の信頼度が高い。	家族アンケートは、生活保護受給者の関係者を含め、多くの回答を得た。ホーム(職員等)への感謝の言葉に加え、医療・健康・安全面での改善を求める意見もあった。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	弊社にて行っている職員アンケート、面談や会議などを通して要望の聞き取りを行う機会を設け、必要時にはできるだけ早くの反映を目指しています。	法人主導の人事制度として職員アンケートを行っている。それを分析してホームとして3項目の改善点を抽出し、個人目標に落とし込んでいる。個人目標は「面談シート」で評価され、処遇にも反映される。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入社1カ月での新スタッフ研修、アンケートやストレスチェックを用い働きやすい環境を目指しています、技能実習生へは生活面でのサポートにも配慮しを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は毎月インターネット研修を行っている、外国の職員にも分かりやすいよう、ポイントをまとめ配慮、また初任者研修や実務者研修への声かけを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	リーダー・管理者は研修などを通じ他事業所と交流や意見交換を行っている勉強会などに新職員と一緒に参加し意見交換のきっかけ作りを意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には情報をもとにスタッフで話し合いを行い、入居後も本人の不安・要望など申し送りや会議で共有、初期にはできるだけご本人の落ち着ける環境での聞き取りを心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に、こちらからの挨拶、近状をお伝えし会話の中から要望を聞き出せるよう心がけています。いただいた要望などは職員と共有しできるだけ実践できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント情報やご本人の様子、ご家族様からのお話から支援方法を考え、ご本人の想いを尊重しながら今、必要な支援を決めていくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	味噌汁作り、盛り付け、掃除機掛け、シーツ交換など安全に参加できるよう、配慮しながらできることの継続、日曜日には配食を中止、住人様の食べたいものリクエストランチを実施しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の希望時には受診の同行、体調変化などあった際には連絡し支援の方向性など含め相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に入居間もない時期には入居で関係が途切れてしまわないように配慮、要望があった際には住んでいた場所を見に行くなどし、入居前の繋がりを重視します。	サタデーマーケットで、自らが編んだテーブルクロス等を販売する利用者がいる。特注品を注文する客がおり、数ヶ月後に完成させて販売した。長年の夢であった兄との再会を果たした利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わり合いのヒントとなる行動・言動を職員間で共有し、会議などで支援方法を話し合います。住人様同士のトラブル時にはいい・悪いと決めずに間に入るように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状態変化などでGHが難しくなってしまった場合にも、ご本人・ご家族様の意向や相談し、気持ちに寄り添い、支援やフォローを行うように努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望があった際に対応できるようにしている。実現できない場合には代替案を検討するなどし、できる限り希望や意向を尊重した支援を心がけています。	意向の表出ができる利用者が多く、希望や要望には極力叶える方針で支援している。3名の技能実習生も、利用者との意思の疎通が図れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報やご家族様からの聞き取り入居後は生活リズム、大切にしていることや好みなど会話の中から引き出せるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	住人様個々の生活パターンを把握し、日々の食事量や排泄・入浴などの支援時に心身の状態や動きの確認を行い変化に気づけるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画の見直し時には、ご家族様への意向や主治医・福祉用具など専門職の意見を取り入れながらユニット会議で話し合い支援の方向性を決定している。	「本人の思いを叶えるためのライフサポートプラン」を使い、以降の実現を目指している。生まれ故郷に帰りたい、兄に会いたい、ナゴヤドームで巨人戦を観戦したい等々、利用者の夢が詰まっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット会議内でモニタリングを行い「最近どうか」話し合いを行っている 短期目標について実践状況がわかるようチェック表を用い意識できるよう取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の同行希望や、面会や外出の支援購入物など、ご家族様ごとに要望は様々なのでどうしたら行えるかを考え、柔軟に対応できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コンビニや雑貨店、飲食店の利用 住人様の個々の楽しみにあった商店街のイベント参加ができるよう調整を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診ではご本人・職員から聞き取りを行い体調やその他のことでも今、気になっていることの共有を行っている。 往診以外にも看護師やコーディネーターを通じ相談が行えている。	利用者全員が、ホーム協力医を主治医として月に2回の訪問診療を受けている。薬剤師が運営推進会議に毎回参加しており、薬局との連携も取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師訪問で住人様の健康の状態を把握していただき 訪問後には情報の共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時住人様の情報をお伝えできるようにしている、ご家族様の要望時には入院中のフォロー、近状やご様子の確認を行います。退院時にはカンファレンスを行い情報の共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについてご本人・ご家族様に説明を行っている。看護師・主治医と連携をとりながら状況に応じ以降の確認を行い、それぞれの終末期を迎えていただけるよう意識しています。	重度化や終末期の支援に関する方針を、利用開始時に説明している。継続的な医療行為が必要な場合は棲み替えを検討するが、生活保護受給者に関しては区の保護係とも相談している。現在、3名の利用者が看取りプランで支援を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成している マニュアルに基づき対応できるように スタッフに周知している、緊急時にはバイタルサイン状況を速やかに看護師へ伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春・秋に行う定期防災訓練ではポイントを伝え、外国の方にも分かりやすく訓練が行えるよう心がけている。管理者は地域自主防災訓練、消防団として広報へ参加 地域運営推進会議で情報の共有を行う。	管理者が地域の消防団員として活動していることもあり、ホームの災害対策に関しても綿密な計画と対応がとられている。消防団員として得た知識や技術を、ユニット会議や運営推進会議で広報している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄・入浴支援時には特に慣れた支援にならないように意識し、カーテンを閉める訪問時のノックを心がけている。	利用者の呼称について、契約時に家族から「ちゃん付け」の希望があったが、あくまでも基本は「苗字にさん付け」としている。外国籍の職員(技能実習生)に対し、日本固有のエチケットやマナーを教育している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉での会話が難しい場面では閉じた質問を投げかけ、うなずきなどで応えられるように住人様に合わせた自己決定できるような声かけや関わりを心がけています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護計画書に基づき支援を行っている住人様1人1人のペースに合わせて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	金銭面で難しい場合にも、要望があった際にはボランティアさんに相談するなどし、その人らしいおしゃれが継続できるように支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付・野菜のカット・洗い物・拭くなど住人様の力に応じ行っている日曜日には配食を中止し住人様のリクエストを聞きお好み焼きや手作りおやつと一緒に作る機会がある。	日曜日以外は、外部の配食サービスを利用している。日曜日は利用者の希望を考慮し、メニューを決めている。おやつ作りには、腕に覚えのある利用者の手伝いがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食の利用、食事量の記録 食事量や体調の変化がある住人様は主治医に相談し、脱水や栄養摂取量に気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床・就寝時やご本人のペースに合わせてご本人のできない部分に関して支援を行っています。必要時には訪問歯科や衛生士さんに助言をいただき行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人に合った時間での声かけや支援を行っている、またパット、リハパンについて適宜お肌の様子・体調の状態に対してサイズや時間帯の見直しを行っています	利用者の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本としている。しかし、あるユニットでは、重度化によって半数近くの利用者がトイレでの排泄が出来ず、ベッド上でのパッドや紙パンツの取替えを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の乱用にならないようにその人にあつた用量・方法・摂取方法など探ります便秘・下痢などある際には水分摂取量を留意しこまめにお声かけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	ご本人の体調や状態、気持ちなどを見ながら1人1人のタイミングに合わせて入浴できるよう支援している、週3回だが無理強いではなく継続した清潔保持を意識しています。	強い入浴拒否を示す利用者はおらず、週に2～3回の入浴を支援している。機械浴槽を導入しており、重度化の進んだ利用者にも入浴機会がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中・夜間の過ごし方はまず見守りその人らしさを尊重します。安眠できない時には日中のお散歩や体操のお声かけを行うなど活動を意識し支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全体往診でお薬の変更や追加があつた際には往診連絡帳に記載し周知、経過を観察し様子に変化があつた際には看護師・主治医へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作品展へ出店、商店街七夕祭りへの参加住人様が作ったものを売る、欲しいものを買いたいを目標にしていた地域バザーでは継続して出店、叶えることができた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り、止める・連れ戻されるのではなく、ただいまと帰ることができることを意識し感情に寄り添つた支援を心がけています。ご家族様との外食機会の継続	利用者の希望と体力(歩行能力)を考慮して、散歩や買い物で外出している。希望があれば、月に1度のサタデーマーケットにも付き添つて外出している。家族同伴で、外食を楽しむ利用者もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設での金銭管理についてはご家族様権利擁護の方と相談しながら行っている日用品や嗜好品などの買い物はご本人が選択し、購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	届けものが届いた際にはお電話で直接お話しする機会をつくったり、書くことが好きな住人様へは封筒や便箋をお渡ししている職員との手紙は今も続いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気の時間への配慮、クリンリネスを心がけ不快な刺激がないように気をつけている。カーテンの開け閉め、家具の配置など住人様の意見を聴きながら行い、心地の良い空間となるよう意識しています	コロナ感染防止の観点から、共用空間への立ち入りを自粛した。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでの移動のイメージをしながらテーブル・椅子・テレビなど配置。皆さんが集まる時間には住人様同士の相性なども留意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みのものを入居時にお持ちいただき入居後もご本人の趣味や作品写真など好きなものを置くことでその方の生活空間が作れるように心がけている	コロナ感染防止の観点から、居室の見学を自粛した。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	住人様のそれぞれできること、分かることを把握し支援方法を探りながらできるだけすっきりとした分かりやすい表示など心がけ自立した生活を送っていただけるよう工夫している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370401230		
法人名	株式会社マザーズ		
事業所名	グループホーム円頓寺東館		
所在地	愛知県名古屋市西区那古野1-20-30		
自己評価作成日	令和5年11月20日	評価結果市町村受理日	令和5年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2370401230-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyouvoCd=2370401230-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和5年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

企業理念である「人生楽しく自分らしく」をもとに住人様1人1人の想いに寄り添い住人様とご家族様の想いを尊重した支援を心がけ、その人らしい・自分らしい暮らし方を医療と連携しながら支援していきます。

今年度は技能実習生さん2名受け入れを行い、人材確保に向けた取り組みを積極的に行いました。その中で伝える大切さを再認識し、昨年入社した職員へも伝える側を体験する機会を設けるなどし、東館の支援とは、考えるきっかけとなったように感じます、離職率も低く、働きやすい環境づくりを心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出かけたい時間帯や要望を聴きながらお参りや散歩、買い物、地域バザー出店など自然な形で地域に出かけられる機会を支援しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアさんと曜日を調整しながら日課や地域との繋がりが継続できるように支援しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施錠しない支援を継続しています 外出される住人様とのいろいろな関わりを見ていただくことが住人様や職員を覚えていただくきっかけになっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議では身体的拘束や感染症など研修の取り組み、ご家族様アンケート結果の報告・会議の目的を行いました(状況報告・情報収集・評価)		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	東館では生活保護受給者の方が多いので保護課の方との関係性が築けていると感じます、今回担当の方が変わった際にも困りごと引き継いでいただけていた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2カ月に1度の身体拘束委員会への参加ユニットごとに毎月の会議で身体拘束について話し合い、取り組み目標を決めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	eラーニングの受講では虐待について必須項目とし全職員対象に行い虐待防止の徹底に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用されている住人様へ支援員の方が来設された際にはご様子をお伝えしたり、面会の依頼、ご本人からの要望・意向のの確認を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	現状は会社の契約担当者が行っている利用者・ご家族様を交えて説明しご理解いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は家族会の開催しました住人様との面会時などにご家族様と直接お話しする機会を設け、家族アンケートを実施、改善点は会議で話し合っています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	弊社にて行っている職員アンケート、面談や会議などを通して要望の聞き取りを行う機会を設け、必要時にはできるだけ早くの反映を目指しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入社1カ月での新スタッフ研修、アンケートやストレスチェックを用い働きやすい環境を目指しています、技能実習生へは生活面でのサポートにも配慮しを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は毎月インターネット研修を行っている、外国の職員にも分かりやすいよう、ポイントをまとめ配慮、また初任者研修や実務者研修への声かけを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	リーダー・管理者は研修などを通じ他事業所と交流や意見交換を行っている勉強会などに新職員と一緒に参加し意見交換のきっかけ作りを意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には情報をもとにスタッフで話し合いを行い、入居後も本人の不安・要望など申し送りや会議で共有、初期にはできるだけご本人の落ち着ける環境での聞き取りを心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に、こちらからの挨拶、近状をお伝えし会話の中から要望を聞き出せるよう心がけています。いただいた要望などは職員と共有しできるだけ実践できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント情報やご本人の様子、ご家族様からのお話から支援方法を考え、ご本人の想いを尊重しながら今、必要な支援を決めていくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	味噌汁作り、盛り付け、掃除機掛け、シーツ交換など安全に参加できるよう、配慮しながらできることの継続、日曜日には配食を中止、住人様の食べたいものリクエストランチを実施しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の希望時には受診の同行、体調変化などあった際には連絡し支援の方向性など含め相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に入居間もない時期には入居で関係が途切れてしまわないように配慮、要望があった際には住んでいた場所を見に行くなどし、入居前の繋がりを重視します。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わり合いのヒントとなる行動・言動を職員間で共有し、会議などで支援方法を話し合います。住人様同士のトラブル時にはいい・悪いと決めずに間に入るように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状態変化などでGHが難しくなってしまった場合にも、ご本人・ご家族様の意向や相談し、気持ちに寄り添い、支援やフォローを行うように努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望があった際に対応できるようにしている。実現できない場合には代替案を検討するなどし、できる限り希望や意向を尊重した支援を心がけています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報やご家族様からの聞き取り入居後は生活リズム、大切にしていることや好みなど会話の中から引き出せるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	住人様個々の生活パターンを把握し、日々の食事量や排泄・入浴などの支援時に心身の状態や動きの確認を行い変化に気づけるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画の見直し時には、ご家族様への意向や主治医・福祉用具など専門職の意見を取り入れながらユニット会議で話し合い支援の方向性を決定している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット会議内でモニタリングを行い「最近どうか」話し合いを行っている 短期目標について実践状況がわかるようチェック表を用い意識できるよう取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の同行希望や、面会や外出の支援購入物など、ご家族様ごとに要望は様々なのでどうしたら行えるかを考え、柔軟に対応できるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コンビニや雑貨店、飲食店の利用 住人様の個々の楽しみにあった商店街のイベント参加ができるよう調整を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診ではご本人・職員から聞き取りを行い体調やその他のことでも今、気になっていることの共有を行っている。 往診以外にも看護師やコーディネーターを通じ相談が行えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師訪問で住人様の健康の状態を把握していただき 訪問後には情報の共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時住人様の情報をお伝えできるようにしている、ご家族様の要望時には入院中のフォロー、近状やご様子の確認を行います。退院時にはカンファレンスを行い情報の共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについてご本人・ご家族様に説明を行っている。看護師・主治医と連携をとりながら状況に応じ以降の確認を行い、それぞれの終末期を迎えていただけるよう意識しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成している マニュアルに基づき対応できるようスタッフに周知している、緊急時にはバイタルサイン状況を速やかに看護師へ伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春・秋に行う定期防災訓練ではポイントを伝え、外国の方にも分かりやすく訓練が行えるよう心がけている。管理者は地域自主防災訓練、消防団として広報へ参加 地域運営推進会議で情報の共有を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄・入浴支援時には特に慣れた支援にならないように意識し、カーテンを閉める訪問時のノックを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉での会話が難しい場面では閉じた質問を投げかけ、うなずきなどで応えられるように住人様に合わせた自己決定できるような声かけや関わりを心がけています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護計画書に基づき支援を行っている住人様1人1人のペースに合わせて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	金銭面で難しい場合にも、要望があった際にはボランティアさんに相談するなどし、その人らしいおしゃれが継続できるよう支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付・野菜のカット・洗い物・拭くなど住人様の力に応じ行っている日曜日には配食を中止し住人様のリクエストを聞きお好み焼きや手作りおやつなど一緒に作る機会がある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食の利用、食事量の記録 食事量や体調の変化がある住人様は主治医に相談し、脱水や栄養摂取量に気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床・就寝時やご本人のペースに合わせてご本人のできない部分に関して支援を行っています。必要時には訪問歯科や衛生士さんに助言をいただき行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人に合った時間での声かけや支援を行っている、またパット、リハパンについて適宜お肌の様子・体調の状態に対してサイズや時間帯の見直しを行っています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の乱用にならないようにその人にあつた用量・方法・摂取方法など探ります便秘・下痢などある際には水分摂取量を留意しこまめにお声かけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	ご本人の体調や状態、気持ちなどを見ながら1人1人のタイミングに合わせながら入浴できるよう支援している、週3回だが無理強いではなく継続した清潔保持を意識しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中・夜間の過ごし方はまず見守りその人らしさを尊重します。 安眠できない時には日中のお散歩や体操のお声かけを行うなど活動を意識し支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全体往診でお薬の変更や追加があつた際には往診連絡帳に記載し周知、経過を観察し様子に変化があつた際には看護師・主治医へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作品展へ出店、商店街七夕祭りへの参加住人様が作ったものを売る、欲しいものを買いたいを目標にしていた地域バザーでは継続して出店、叶えることができた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り、止める・連れ戻されるのではなくただいまと帰ることができることを意識し感情に寄り添つた支援を心がけています。ご家族様との外食機会の継続		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設での金銭管理についてはご家族様権利擁護の方と相談しながら行っている日用品や嗜好品などの買い物はご本人が選択し、購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	届けものが届いた際にはお電話で直接お話しする機会をつくったり、書くことが好きな住人様へは封筒や便箋をお渡ししている職員との手紙は今も続いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気の時間への配慮、クリンリネスを心がけ不快な刺激がないように気をつけている。カーテンの開け閉め、家具の配置など住人様の意見を聴きながら行い、心地の良い空間となるよう意識しています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでの移動のイメージをしながらテーブル・椅子・テレビなど配置。皆さんが集まる時間には住人様同士の相性なども留意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みのものを入居時にお持ちいただき入居後もご本人の趣味や作品写真など好きなものを置くことでその方の生活空間が作れるように心がけている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	住人様のそれぞれできること、分かることを把握し支援方法を探りながらできるだけすっきりとした分かりやすい表示など心がけ自立した生活を送っていただけるよう工夫している。		